

## 中国の中学生が認知する親の養育態度とソーシャル スキルとの関連

朱, 英超  
九州大学大学院人間環境学府

<https://doi.org/10.15017/25151>

---

出版情報 : 九州大学心理学研究. 13, pp.125-135, 2012-03-30. Faculty of Human-Environment  
Studies, Kyushu University

バージョン :

権利関係 :



# 中国の中学生が認知する親の養育態度と ソーシャルスキルとの関連

朱 英超 九州大学大学院人間環境学府

## The relationship between Chinese junior high school students' parents attitude recognition and their social skills

Yingchao Zhu (*Graduate School of Human-Environment Studies, Kyushu University*)

**Abstract :** In order to examine the relationship between Chinese junior high school students' parents attitude recognition and their social skills, the research recruited 370 junior high school students as subjects adopting EMBU and SSI-M. The results showed that 1) male students' recognition of parents over-intervention and paternal refusal attitude are higher than female students. 2) Chinese junior high school students' social skills are positively correlate to their recognition of positive parents emotion and support. Female students' skill to establish personal relationship are positively correlated with their recognition of positive parents emotion, while male students' skill to establish personal relationship are positively correlated with their recognition of parents support. Male students' emotion control skills are negatively correlated with their recognition of maternal punishment, while female students' emotion control skills are negatively correlated with their recognition of paternal over-protection and maternal over-intervention. The results of this research suggest that parents should adopt an understanding and supporting parents attitude in order to help develop junior high school students' social skills.

**Key Words:** junior high school students' parents attitudes recognition, Chinese junior high school students, social skills

## I 問題と目的

### 1. 中国における中学生の特徴

人口が13億を越える中国では、「一人っ子政策」を国家的な基本法として掲げ、30年が過ぎた。中国国家人口開発研究戦略課題組の調査(2007)によると、中国における一人っ子は1億人に達し、2023年まで一人っ子は増加すると考えられている。一人っ子の比率は総人数の92.3%に達し、その内訳は、中国教育部(2009)の調査によると、在籍している中学生の総人数は約5400万人程度である。都市部の若者のほとんどが、兄弟姉妹がいない環境の中で育てられている。子ども一人を親と4人の祖父母で世話している状況は「1-2-4家庭」と呼ばれている(周, 2006)。一人っ子の場合、良好な経済的生活条件と親の愛情を一人で享受することができるため、非一人っ子に比べて知的に優秀であり、想像力が豊か、好奇心が強く、進取の気性に富むなどの特性が挙げられている(蘭, 2007)。しかし一方で、劉(2005)は一人っ子問題の特徴として、親から過保護で過干渉の養育を受け、わがままで、社会性が乏しい(劉, 2005; 李ら, 2007)と報告している。

中国では、高校の進学率の高まりから、大多数の中学生が過度の受験競争を強いられることになる。子どもに

良い生活をさせ、より良い教育を受けさせるため、経済負担が重いにもかかわらず、子どもたちを数多くの塾に通わせると周(2006)は述べている。親の高い教育への期待は、子どもに対する養育態度を知育偏重に向かわせ、子どもの自立した生活経験の不足、他人への思いやりの欠如を招いている。子どもへの理解不足、過保護、学習面における厳しさなど親の側の問題(李ら, 2007)が指摘されている現状がある。

### 2. 親の養育態度が子どもの行動特性やソーシャルスキルに及ぼす影響

子どもが生まれて初めて結び合う人間関係は親及び家族との関係である。親をはじめ家族は子どもの社会化の最初の担い手であり、子どもはそのような関係の中で社会集団の一員として必要な行動規範や行動様式などの社会的な学習を開始し、対人関係に必要なソーシャルスキルを獲得していく(劉, 2005; 杉浦ら, 2007)。また、子どもは家庭という第一集団の中で親の行動を観察・モデリングし、親からのしつけを通して、基礎的なソーシャルスキルを獲得すると考えられる(青木ら, 2008)。親との経験は、親の養育態度と関連があると杉浦ら(2007)は指摘しているが、親の養育態度が子どものパーソナリティやソーシャルスキルに与える影響を調べた実

証的な研究は多い。

養育態度を「親などの養育者が子どもを育てる際にとる態度、行動」と定義し、岳 (1993) は中国における神経症患者と親の養育態度との関連について検討している。神経症傾向が高いものについては、親の情緒的受容と理解の面で欠け、拒否的な養育態度が特徴的であると述べている。また、両親が共に受容的な態度の場合、両親の受容的な態度と高校生の対人信頼感と正の関連があり、拒否的あるいは過干渉な態度は対人信頼感と負の関連がある (賈, 2010) などの報告がある。

ソーシャルスキルは、人が他者とうまくつき合うことができるかどうかに関係し、より良い社会生活をおくるために大変重要である (毛ら, 2005)。親の養育態度と子どものソーシャルスキルの関連について、杉浦ら (2007) は子どもの気持ちを受容し、自律性を尊重する母親の養育態度がソーシャルスキルの獲得に影響を与えると報告している。戸ヶ崎ら (1997) は親の養育態度、子どものソーシャルスキルとクラス内の地位の関連について検討し、母親から積極的な養育態度を受けた小学生はソーシャルスキルとクラス内の地位が高いことを示している。また、青木ら (2007) はソーシャルスキルの獲得には同性よりも異性の親の養育態度が大きく影響することを明らかにしていることから、性別意識が強くなる中学生に対しては、性別を考慮する必要があると考えられる。

### 3. 子どもの側が認知する養育態度

以上のように、親の養育態度と子どものパーソナリティやソーシャルスキルの関連について指摘する研究は多いが、親が実際に行なっている養育態度と、子ども自身が感じる養育態度は必ずしも一致しないと佐藤 (2007) は指摘している。また中学生の場合特に、青年期前期の心理的離乳という不安定な時期にあり、親とのかかわりが難しく、子どもが認知する親の養育態度と親の期待が異なる (庄司ら, 2000) という指摘があり、親の養育を受ける子ども自身の認知が重要であると篠原ら (1987) は述べている。

### 4. 本研究の目的

現在の中国では、親の養育態度と子どものソーシャルスキルの関連が注目されているが、ソーシャルスキルを測定する尺度が必要であるにもかかわらず、欧米および日本の翻訳尺度を用いた大学生を対象とする研究 (侯, 2003; 毛, 2005) しか報告がなく、オリジナルの尺度が存在しないのが現状である。

本研究では、中国の中学生を対象として、日常生活で長い時間を過ごす学校生活に焦点を当て、杉村ら (2007) が作成した児童生徒用ソーシャルスキル尺度

SSI-M (Social Skills Inventory for Middle School Students) を用いて、学校生活に必要なとされるソーシャルスキルについて検討する。

また中国においては、夫婦共働きの家庭が多く、子育てでも母親と父親との分担になるため、母親だけではなく、父親の養育態度についても検討する必要がある。本研究においては、中国でよく使用されている、Perris ら (1980) が作成した、親の養育態度と養育行為を幅広く測定できる尺度 EMBU (Egma Minnen av Bardndosna Uppforstran) を用い、子どもが認知する親の養育態度を多面的に明らかにすることを試みる。

以上、本研究では、性差を含めて、中国の中学生が認知する親の養育態度とソーシャルスキルとの関連を明らかにすることを目的とする。

仮説は次のとおりである。

- ① 男子は女子よりも、親の期待が高いため、養育態度において情緒的受容が少なく、一方的拒否と罰が多いと認知される傾向がある。
- ② 情緒的受容の養育態度はソーシャルスキルを高め、拒否的な養育態度はソーシャルスキルを低める。

## II 方法

### 1. 調査対象:

中国 A 市の中学校に在籍する学生 409 名であった。回収率は 99.8% で、有効回答者は 1 年生 125 名、2 年生 121 名、3 年生 128 名の合計 374 名 (男子 188 名、女子 186 名) であった。

本調査の対象者の属性を Table 1 に示す。

今回は両親が揃っていると回答した 370 名 (男子 188 名、女子 182 名、平均年齢は 13.33 歳、 $SD=1.18$ ) を対

Table 1  
対象者の属性

|          | 人数  | %    |
|----------|-----|------|
| 中学       |     |      |
| 一年生      | 125 | 33.4 |
| 二年生      | 121 | 32.4 |
| 三年生      | 128 | 34.2 |
| 性別       |     |      |
| 男        | 188 | 50.3 |
| 女        | 186 | 49.7 |
| 年齢       |     |      |
| 11 歳     | 3   | 0.8  |
| 12 歳     | 87  | 23.3 |
| 13 歳     | 115 | 30.7 |
| 14 歳     | 120 | 32.1 |
| 15 歳     | 44  | 11.8 |
| 16 歳     | 5   | 1.3  |
| 両親       |     |      |
| 両親が揃っている | 339 | 90.6 |
| 母親のみである  | 26  | 7.0  |
| 父親のみである  | 9   | 2.4  |
| 兄弟の人数    |     |      |
| 1 人      | 362 | 96.8 |
| 2 人以上    | 12  | 3.2  |

象者とした。

## 2. 調査内容：

### (1) フェイスシート：

性別、学年、両親と兄弟の有無などを尋ねる。

### (2) 中学生が認知する親の養育態度尺度：

中国語版養育態度評価尺度 EMBU (岳, 1999) は、英訳版に基づき、中国の臨床心理学者によって翻訳されたものである。その際、宗教のような文化の差異も考慮して、項目の調整や削除が行われた。両親の養育態度尺度は、被調査者が自分の親から受けた養育態度を想起させ、父親、母親に対してそれぞれに評価してもらう形である。今回に調査対象者はほとんど一人っ子であり、養育態度尺度にはきょうだいがいることを前提とした「偏愛」に関する項目を削除した。その結果、61項目で、父親の養育態度は52項目、母親の養育態度は53項目から構成された(父親・母親尺度は共通項目が44個であり、独自項目がそれぞれ8個、9個である)。父親の下位尺度は「情緒的暖かみ」「罰」「過干渉」「一方的拒絶」「過保護」で、母親のが「情緒的暖かみ」「過保護・過干渉」「一方的拒絶」「罰」である。各項目に対して、回答方法は「めったにない」(1点)から「いつもある」(4点)までの4件で尋ねる。

項目の例：

17 私はいつも耐えられる以上に両親に処罰されている。

29 両親にいつも励まされて、優れている人にならせてくれる。

50 親は私を自然のままに成長させてくれる。

### (3) 中学生のソーシャルスキル尺度：

児童生徒用ソーシャルスキル尺度 SSI-M (杉村ら, 2007) は、中学生のソーシャルスキルを多面的捉えている。下位尺度は「関係開始」、「基本的マナー」、「他者への配慮」、「意思表示」、「感情統制」の5つのスキルで、各下位尺度10項目の計50項目から構成されている。回答方法は「まったくあてはまらない」(1点)から「非常にあてはまる」(4点)までの4件法で尋ねる。SSI-M 国際比較の中国語版を参考にして、臨床心理学を専攻する大学院生4名による内容の妥当性及び中国語の訳文の検討を経て質問紙を作成した。

項目の例：

8 気をつけていても、気持ちが顔にでてしまう。

12 初めて会う人と簡単に仲良くなることができる。

34 相手の気持ちを考えて行動できる。

42 いやなことは、いやと言える。

## 3. 調査時期：

調査は2010年11月上旬に実施した。

## 4. 調査手続き：

調査は、調査対象者が授業で教室に集合した際に、担任教師が被調査者に研究説明書と無記名の質問紙を配布し、口頭で趣旨説明を行い、協力を依頼し、その場で記入後回収した。

## 5. 倫理的配慮：

親が離婚した対象者を配慮するため、「離婚」という言葉を避け、フェイスシートで親と一緒に住んでいるかどうかを聞き(中国では単身赴任がめったにない)、「父親若しくは母親のどちらが一方で答えてもいい」と指示語に入れた。

## III 結果

### 1. 中学生が認知する親の養育態度尺度の因子分析

中学生が認知する親の養育態度尺度の母親尺度と父親尺度の天井効果・フロア効果が見られない項目について、因子分析(主因子法・プロマックス回転)を行った。繰り返し因子分析を行った結果、因子負荷量の絶対値が.40以上となる項目を採用し、母親・父親尺度それぞれ39項目と33項目を採択した。母親の養育態度では「情緒的暖かみ」「嫌悪」「過保護」「過干渉・拒否」「罰」5因子が抽出され、父親尺度で「情緒的暖かみ」「嫌悪」「過干渉・拒否」「罰」4因子が抽出された。因子分析の結果をTable 2及びTable 3に示す。

### 2. 中学生が認知する親の養育態度の検討

中学生が認知する親の養育態度の違いを検討するため、性別を独立変数、母親・父親の養育態度の下位尺度の得点を従属変数として、*t*検定を行った。その結果、母親の「過干渉・拒否」と父親の「嫌悪」「過干渉・拒否」に有意差が見られた( $t(368)=2.91, p<.05$ ;  $t(366)=2.08, p<.05$ ;  $t(367)=3.15, p<.05$ ) (Fig.1)。

### 3. 中国の中学生のソーシャルスキルの因子分析

翻訳した中学生のソーシャルスキル尺度の50項目に

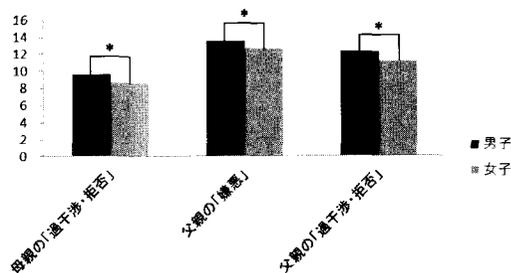


Fig.1 中学生が認知する親の養育態度の平均値

Table 2  
中学生が認知する母親の養育態度尺度 因子分析の結果 (n=370, R<sup>2</sup>=43.323)

| 質問項目   | 因子負荷量       |             |             |             |             |
|--|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
|  | I           | II          | III         | IV          | V           |
| <b>第一因子 情緒的暖かみ (14項目, <math>\alpha=0.858</math>)</b> |             |             |             |             |             |
| 25 私が困難に面する時, 親に励まされると感じる                            | <b>.664</b> | .067        | -.100       | .034        | -.167       |
| 29 親によく励まされて, 優れている人にならせてくれる                         | <b>.649</b> | .103        | .149        | .097        | -.033       |
| 30 親はいつも私のことを愛することを表す                                | <b>.632</b> | .215        | -.031       | .110        | -.084       |
| 15 私が困難に向かっている時, 親に励まされ, 慰められると感じる                   | <b>.618</b> | -.083       | -.152       | .150        | .027        |
| 31 親は私のことを信じて, 一人で事をやらせる                             | <b>.618</b> | .082        | -.270       | -.082       | .063        |
| 6 親は私に影響し, 立派な人になさせる                                 | <b>.612</b> | .229        | .092        | .133        | -.044       |
| 42 私は悲しいと感じる時, 親に慰められる                               | <b>.608</b> | -.180       | -.061       | .051        | -.051       |
| 37 親はなるべく私の青春を充実させる (例えば, 私に本をたくさん買われ, サークルに参加させる)   | <b>.582</b> | .205        | .017        | -.315       | -.007       |
| 4 私は親からの愛情を感じる                                       | <b>.576</b> | -.243       | .173        | .023        | .180        |
| 60 私が親と暖かい, 親しく感じる                                   | <b>.564</b> | -.199       | .064        | -.072       | .006        |
| 8 私はやっていることが見事にできた時, 親に誇りに感じられる                      | <b>.562</b> | -.046       | .034        | .081        | -.042       |
| 32 親は私の見方を尊重する                                       | <b>.536</b> | -.191       | -.271       | .085        | .088        |
| 2 親の言葉と表情から私が愛されることを感じる                              | <b>.528</b> | -.294       | .224        | -.057       | .195        |
| 33 私は親が私と一緒にいたがると思う                                  | <b>.494</b> | .109        | .129        | -.337       | -.074       |
| <b>第二因子 嫌悪 (9項目, <math>\alpha=0.822</math>)</b>      |             |             |             |             |             |
| 17 私が耐えられる以上に親に処罰されている                               | .023        | <b>.747</b> | .010        | -.080       | .028        |
| 22 親は私がわがわがわからない時カットとなる                              | -.039       | <b>.694</b> | .125        | -.097       | -.018       |
| 26 私はいつも家でスケープゴートになる                                 | .076        | <b>.678</b> | .104        | -.149       | -.078       |
| 52 つまらないことのためでも, 親に厳しく処罰されることがある                     | .155        | <b>.672</b> | .014        | .048        | .135        |
| 45 私はよく親に家での態度が良くないと言われる                             | .010        | <b>.580</b> | -.011       | .216        | -.168       |
| 43 私はわががないので親に処罰される                                  | -.151       | <b>.531</b> | -.118       | -.069       | .258        |
| 51 私はよく親に荒っぽく接される                                    | -.072       | <b>.530</b> | -.110       | .214        | -.060       |
| 47 私はよく人の前で親に怠け者と役に立たないに叱られた                         | .049        | <b>.455</b> | .017        | .090        | .313        |
| 28 親はいつも私が不愉快の原因だと思われる                               | -.145       | <b>.451</b> | .128        | .118        | .006        |
| <b>第三因子 過保護 (7項目, <math>\alpha=0.728</math>)</b>     |             |             |             |             |             |
| 12 けがをしたら心配するので, ほかの子どもができることを親はやらせてくれない             | .004        | -.052       | <b>.626</b> | .085        | -.078       |
| 24 親はよく私が取れた点数に気になる                                  | .010        | -.058       | <b>.595</b> | .013        | .064        |
| 48 親はよく私がどんな友だちをできていることに心にかかる                        | .005        | -.062       | <b>.575</b> | .302        | -.129       |
| 41 私は親が成績, 体育活動などに高い希望を持つと思う                         | -.017       | -.086       | <b>.565</b> | .180        | .146        |
| 1 親は私がやっていることをすべて口出すと思う                              | -.035       | .230        | <b>.558</b> | -.033       | -.056       |
| 10 親は厳しいと思う  | .028        | .270        | <b>.519</b> | -.100       | .065        |
| 11 親は私がどんな服を着ることに口出しをする                              | .027        | .212        | <b>.514</b> | -.214       | .047        |
| <b>第四因子 拒否・過干渉 (5項目, <math>\alpha=0.661</math>)</b>  |             |             |             |             |             |
| 36 私は家に帰ったら親にやっていることを報告させられる                         | -.031       | -.137       | .077        | <b>.679</b> | .046        |
| 19 私は何がやり間違った時, 親はいつも悲しい姿で私を恥ずかしく感じさせる               | .130        | -.064       | .031        | <b>.580</b> | -.128       |
| 39 親は私を甘えられないことを言い訳として, 私の要求を断る                      | -.015       | .136        | -.090       | <b>.575</b> | .105        |
| 38 「それは毎日苦勞して世話をやくこと応えなのか」とよく親に言われた                  | -.013       | .263        | .113        | <b>.507</b> | -.010       |
| 35 「そうしたらお父さんとお母さんが悲しいよ」ってよく言われた                     | .185        | .216        | .081        | <b>.499</b> | .066        |
| <b>第五因子 罰 (4項目, <math>\alpha=0.616</math>)</b>       |             |             |             |             |             |
| 53 私はわががないので親に殴られる                                   | .059        | .050        | -.104       | -.057       | <b>.763</b> |
| 55 私はよく親に殴られる  | -.049       | .057        | .018        | -.012       | <b>.717</b> |
| 59 親の心配はおおげさで, ぜいたくだと思う                              | -.070       | -.182       | .269        | .019        | <b>.518</b> |
| 58 親はよく私が堪えないやり方で接する                                 | -.043       | .263        | -.086       | .147        | <b>.504</b> |
| 因子間相関  |             |             |             |             |             |
|  | I           | II          | III         | IV          | V           |
| I  | -           | -.311       | -.093       | -.109       | -.119       |
| II   |             | -           | .283        | .339        | .254        |
| III  |             |             | -           | .321        | .184        |
| IV   |             |             |             | -           | .163        |
| V  |             |             |             |             | -           |

※は逆転項目

Table 3  
中学生が認知する父親の養育態度尺度 因子分析の結果 (n=370, R<sup>2</sup>=44.357)

| 質問項目   | 因子負荷量       |             |             |             |
|--|-------------|-------------|-------------|-------------|
|  | I           | II          | III         | IV          |
| <b>第一因子 情緒的暖かみ (15項目, <math>\alpha=0.866</math>)</b> |             |             |             |             |
| 42 私は悲しいと感じる時、親に慰められる                                | <b>.742</b> | -.023       | .009        | .088        |
| 4 私は親からの愛情を感じる                                       | <b>.706</b> | -.002       | .044        | -.159       |
| 29 親は私を励まし、立派な人になさせる                                 | <b>.642</b> | .102        | .016        | .116        |
| 25 難しいことに面する時、私は親に支えられると感じる                          | <b>.635</b> | -.111       | .060        | -.081       |
| 15 私が困難に向かっている時、親に励まされ、慰められると感じる                     | <b>.620</b> | -.176       | .110        | .108        |
| 37 親はなるべく私の青春を充実させる (例えば、私に本をたくさん買われ、サークルに参加させる)     | <b>.603</b> | .233        | -.099       | -.039       |
| 2 親の言葉と表情から私が愛されることを感じる                              | <b>.599</b> | -.041       | .082        | -.297       |
| 60 私が親と暖かい、親しく感じる                                    | <b>.598</b> | .098        | -.085       | -.188       |
| 3 親は私をよく抱く   | <b>.570</b> | .161        | .137        | -.146       |
| 30 親はいつも私のことを愛することを表す                                | <b>.565</b> | .169        | .037        | .046        |
| 33 私は親が私と一緒にいたがると思う                                  | <b>.508</b> | -.002       | -.116       | -.120       |
| 31 親は私のことを信じて、一人で事をやらせる                              | <b>.489</b> | -.128       | -.131       | .244        |
| 32 親は私の見方を尊重する                                       | <b>.488</b> | -.297       | -.073       | .225        |
| 6 親は私を影響し、立派な人になさせる                                  | <b>.475</b> | .014        | .211        | .350        |
| 61 私が親と違った見方ある時、親に認められる                              | <b>.412</b> | -.077       | -.191       | -.018       |
| <b>第二因子 嫌悪 (8項目, <math>\alpha=0.785</math>)</b>      |             |             |             |             |
| 17 私が耐えられる以上に親に処罰されている                               | -.027       | <b>.773</b> | -.146       | .156        |
| 5 ちっともない過ちにしても、私は親に処罰される                             | .224        | <b>.700</b> | -.011       | .216        |
| 13 小さい頃、私は親に人の前で殴られた                                 | -.030       | <b>.688</b> | .031        | .109        |
| 10 親は厳しいと思う  | .171        | <b>.601</b> | -.080       | -.044       |
| 55 私はよく親に殴られる  | .162        | <b>.593</b> | -.048       | .332        |
| 43 私はわけがないので親に処罰される                                  | -.152       | <b>.566</b> | -.087       | .299        |
| 18 もし私は家で親の言いつけを聞かれば、親に怒らせる                          | .013        | <b>.566</b> | .120        | -.052       |
| 22 親は私がわけがわからない時カッとなる                                | -.117       | <b>.445</b> | .260        | .202        |
| <b>第三因子 過干渉・拒否 (7項目, <math>\alpha=0.698</math>)</b>  |             |             |             |             |
| 39 親は私を甘えられないことを言い訳として、私の要求を断る                       | -.090       | -.140       | <b>.734</b> | .185        |
| 36 私は家に帰ったら親にやっていることを報告させられる                         | .058        | -.266       | <b>.712</b> | .143        |
| 34 親は私に気が小さいと思う                                      | -.117       | .086        | <b>.614</b> | .055        |
| 23 私はほしいものがあれば、親がいつもけちだ                              | -.206       | .106        | <b>.597</b> | -.145       |
| 35 「そうしたらお父さんとお母さんが悲しいよ」ってよく言われた                     | .143        | .046        | <b>.523</b> | .074        |
| 14 親は私が夜で何をするのか心にかかる                                 | .213        | .111        | <b>.483</b> | -.230       |
| 12 けがをしたら心配するので、ほかの子どもができることを親はやらせてくれない              | .245        | .121        | <b>.441</b> | -.093       |
| <b>第四因子 罰 (3項目, <math>\alpha=0.548</math>)</b>       |             |             |             |             |
| 53 私はわけがないので親に殴られる                                   | .035        | .175        | -.081       | <b>.606</b> |
| 49 いろんなことがあっても、私だけは責められる                             | -.176       | .168        | .088        | <b>.596</b> |
| 52 私は親にちっともないことで処罰される                                | -.079       | .020        | .257        | <b>.590</b> |
| 因子間相関  | I           | II          | III         | IV          |
|  | I           | -           | -.316       | -.166       |
|  | II          | -           | .492        | -.061       |
|  | III         | -           | -           | .060        |
|  | IV          | -           | -           | -           |

ついて、天井効果及びフロア効果の見られなかった40項目に対して、因子分析(主因子法, Promax 回転)を行った。因子負荷量の絶対値が40以上となる項目を採用し、繰り返し因子分析を行った結果22項目を採択し、3因子が抽出された。これは杉村ら(2007)の因子分析の結果と違った(Table 4)。

第一因子は、信頼を得る行動、相手の配慮と友人関係の維持などを含め、集団生活に必要なスキルを表しているような内容の項目が高い負荷量を示したため、「社交性」と命名した。第二因子は新しく友人関係を築くためと必要なスキルを表しているような内容の項目が高い負荷量を示したため、「関係作り」と命名した。第三因子は気持ちをコントロールすることを表していると解釈されたので、「感情統制」と命名した。

#### 4. 中国の中学生が認知する親の養育態度とソーシャルスキルとの関連

中学生が認知する親の養育態度とソーシャルスキルの相関を明らかにするため、相関分析を行った。Table 5に男子・女子のソーシャルスキルの下位尺度と母親・父親の養育態度との相関係数を示した。

男女とも「社交性」と両親の「情緒的暖かみ」との間に有意な正の相関が見られた( $r=.300, p<.001$ ;  $r=.359, p<.001$ ;  $r=.306, p<.001$ ;  $r=.380, p<.001$ )。男子の「社交性」は父親の「過干渉・拒否」と弱い正の相関があることが明らかにされた( $r=.162, p<.05$ )。また男女とも「関係作り」が両親の「情緒的暖かみ」と弱い正の相関が認められた( $r=.155, p<.05$ ;  $r=.222, p<.01$ ;  $r=.216, p<.01$ ;  $r=.229, p<.01$ )。さらに、女子の「感情統制」は父親の「過干渉・拒否」と負の相関が明らかにされた( $r=-.259, p<.001$ )。男子の「感情統制」は母親の「嫌悪」「罰」と弱い負の相関が見られ( $r=-.153, p<.05$ ;  $r=-.159, p<.05$ )、女子の

Table 4  
中学生のソーシャルスキル尺度因子分析の結果 (n=370,  $\alpha=.735$ )

| 質問項目   | 因子負荷量       |             |              |
|--|-------------|-------------|--------------|
|  | I           | II          | III          |
| <b>第I因子 社交性 (10項目, <math>\alpha=.707</math>)</b>   |             |             |              |
| 35 自分のことを話すばかりでなく人の話も聞くことができる                      | <b>.703</b> | .137        | -.030        |
| 33 相手の気持ちを考えて行動できる                                 | <b>.694</b> | .207        | .039         |
| 10 初対面の人に話しかけられたら、明るく応対できる                         | <b>.500</b> | -.087       | -.002        |
| 2 相手のペースに合わせて話すができる                                | <b>.491</b> | .055        | -.124        |
| 17 相手のペースに合わせて話ができる                                | <b>.485</b> | -.083       | -.209        |
| 39 友だちにいやなことをされても我慢してしまう (*)                       | <b>.479</b> | .147        | -.074        |
| 30 話し合いのときみんなが発言できるように心がける                         | <b>.465</b> | -.220       | .061         |
| 31 集団でいるとき、みんなが楽しめるように気を配る                         | <b>.458</b> | -.091       | .010         |
| 37 人の話の内容がまちがいだと思ったときに、自分の考えを言える                   | <b>.425</b> | -.188       | .130         |
| 40 不安なときでもおちついて行動できる                               | <b>.403</b> | -.024       | -.235        |
| <b>第II因子 関係作り (5項目, <math>\alpha=.610</math>)</b>  |             |             |              |
| 5 人とうちとけるには時間がかかる (*)                              | .167        | <b>.748</b> | .070         |
| 1 初めての人に話しかけるのは苦手だ (*)                             | .048        | <b>.689</b> | -.096        |
| 15 初めての人に話しかけられると、どう対応してよいかわからない (*)               | .057        | <b>.641</b> | .210         |
| 38 初めて会う人でも気軽にあいさつできる                              | .400        | <b>.554</b> | .157         |
| 49 初めて会う人と簡単に仲良くなることできる                            | .346        | <b>.551</b> | .101         |
| <b>第III因子 感情統制 (7項目, <math>\alpha=.602</math>)</b> |             |             |              |
| 50 気持ちが顔に出さないでいられる                                 | .007        | .019        | <b>-.605</b> |
| 25 友だちの秘密をうっかり話してしまう (*)                           | .038        | .097        | <b>.599</b>  |
| 9 気をつけていても、気持ちが顔にでしてしまう (*)                        | -.151       | .002        | <b>.588</b>  |
| 18 他人の気持ちをあまり考えずに行動する (*)                          | -.158       | -.035       | <b>.521</b>  |
| 43 一度気持ちが乱れてしまうと、なかなかものごとに集中 (*)                   | .018        | -.029       | <b>.520</b>  |
| 32 恐いと感じるとどうしたらよいかわからなくなってしまう (*)                  | .274        | .333        | <b>.463</b>  |
| 23 腹が立ってもカッとせずおちついて行動できる                           | .290        | .117        | <b>-.434</b> |
| <b>因子間の相関</b>                                      |             |             |              |
| I  | -           | .241        | .050         |
| II   |             | -           | .017         |
| III  |             |             | -            |

(※)は逆転項目

**Table 5**  
男子・女子のソーシャルスキルの下位尺度と父親・母親の養育態度の下位尺度の相関係数

|             | ソーシャルスキルの下位尺度  |               |             |                |               |             |
|-------------|----------------|---------------|-------------|----------------|---------------|-------------|
|             | 男子の<br>社交性     | 男子の<br>関係作り   | 男子の<br>感情統制 | 女子の<br>社交性     | 女子の<br>関係作り   | 女子の<br>感情統制 |
| 母親の「情緒的暖かみ」 | <b>.300***</b> | <b>.155*</b>  | .076        | <b>.359***</b> | <b>.222**</b> | .087        |
| 母親の「嫌悪」     | .035           | -.075         | -.153*      | -.122          | -.065         | -.141       |
| 母親の「過保護」    | .136           | .061          | -.018       | .020           | .018          | -.151*      |
| 母親の「過干渉・拒否」 | .100           | -.007         | -.099       | -.031          | -.006         | -.247**     |
| 母親の「罰」      | .073           | -.062         | -.108       | .078           | -.058         | -.193**     |
| 父親の「情緒的暖かみ」 | <b>.306***</b> | <b>.216**</b> | .022        | <b>.380***</b> | <b>.229**</b> | .113        |
| 父親の「嫌悪」     | .108           | .081          | -.062       | -.066          | -.054         | -.077       |
| 父親の「過干渉・拒否」 | .162*          | -.033         | -.111       | -.028          | -.030         | -.259***    |
| 父親の「罰」      | .129           | -.113         | -.159*      | -.037          | -.016         | -.028       |

\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ , \*\*\* $p < .001$

「感情統制」は母親の「過保護」「過干渉・拒否」「罰」と弱い負の相関があることが明らかにされた ( $r = -.151, p < .05$ ;  $r = -.247, p < .01$ ;  $r = -.193, p < .01$ )。 (Table 5)

#### IV 考察

##### 1. 中学生が認知する親の養育態度尺度の因子分析の結果について

中学生が認知する親の養育態度尺度が因子分析の結果、母親の養育態度尺度 39 項目、「情緒的暖かみ」「嫌悪」「過保護」「過干渉・拒否」「罰」の 5 つの下位尺度と父親の養育態度尺度 33 項目、「情緒的暖かみ」「嫌悪」「過干渉・拒否」「罰」の 4 つの下位尺度で構成された。各因子における Cronbach の  $\alpha$  係数を算出したところ、父親の第 4 因子において若干値が低い、ほぼ十分な内的整合性が確認された。母親の因子構造は岳 (1999) の親の養育態度尺度とほぼ同じであり、父親の養育態度尺度では、「過保護」に関する項目が落ちた。「過干渉・拒否」は違う養育態度であるが、一つの下位尺度に固まった理由として、両方とも親が子どもを消極的に育てる態度として扱われた。

母親と父親の因子構造も大分同じであるが、母親の第 3 因子が「過保護」で、父親の「過保護」に関する項目が落ちた。それは母親と父親の養育態度の違いだと思われる。その理由として、岳 (1993) は、中国家庭で、父親が権力・力を象徴し、家庭内でのイベントを決め、子どものことを母親に任せ、母親が子どもの世話をし、「過保護」になりやすいと指摘していることと同様と考えられる。また、家族が多様化してきた今の中国は、父親の家庭参加が以前より大きく貢献をしていると思われるが、伝統的な家庭内の親役割、すなわち稼ぎ手としての父親と家事・育児を担当する母親と子どもという家族

形態の意識が残っていると考えられる。

##### 2. 中国の中学生が認知する親の養育態度について

中学生が認知する親の養育態度の違いを男女別に検討したところ、母親の「過保護・拒否」と父親の「嫌悪」「過干渉・拒否」に有意な差が見られた。両親ともに養育態度の「過干渉・拒否」について男子は女子より高く認知していた。親は男子に対して女子よりも拒否し、行動を否定し、また感情的で口うるさく干渉し、支配的な厳しい養育を行うと男子には認知されていることが示唆される。

本研究と同じように、鄧ら (1990) は中国の一人っ子の親の養育態度についての研究で、中国の一人っ子の親の養育態度の特徴として厳格・支配性を指摘している。その背景として、社会的に男性は女性より強いことが期待されており、社会的伝統的性別役割観と育児観が影響しており、親は男子が女子より立派な人になることを期待しているため、男子のほうが女子より親の「過干渉・拒否」が高くなるのではないかと考えられる。

しかし、上原ら (1999) は日本語版の EMBU 尺度を用い、親の養育態度と子どもの出生順位、性別との関連の研究で、日本の場合、父親の拒絶には男子が女子より高く、親の暖かみには女子が男子より高いと報告している。また女子においては、母親の拒絶得点が父親より有意に高く、母親の暖かみと過保護得点は父親より男女とも有意に高いことがわかった。本研究では、子どもに対する厳しい養育に有意差が見られた。他の養育態度に有意な差が見られなかった理由として、繆 (1997) は中国の家庭教育に関する研究では、子ども中心の親の養育態度について指摘している。たった一人の子どもであるからこそ、男女を問わず、大切に扱われ、親が大事に世話をするということになると考えられる。

この結果は仮説①の男子は女子よりも、親の養育態度

を、一方的拒絶と罰が多いものとして認知する傾向があるという部分は支持された。

### 3. 中国の中学生のソーシャルスキルについて

ソーシャルスキル尺度を用いて因子分析を行った結果、中学生のソーシャルスキル尺度は「社会性」「関係作り」「感情統制」の3つの因子で構成された。各因子のCronbachの $\alpha$ 係数を算出したところ順に.707, .610, .602の値が得られ、第2因子と第3因子の $\alpha$ 係数は高くないが、ほぼ十分な内的整合性が認められた。因子構造は杉村ら(2007)の児童生徒用ソーシャルスキル尺度と大きく異なり、下位尺度の「基本的なマナー」と「意思表示」が因子分析で落ちた。(Fig.2)

その原因として、ソーシャルスキルは所属する文化に由来する規範と深い関連があると考えられる。大坊(2003)は、文化において推奨されない行動パターンの表出を避けた方が他者との調和的な関係を築きやすいとし、適応という観点からソーシャルスキルが文化によって規定されると述べている。また、堀毛(1994)は、日本文化とアメリカ文化との比較を通して、ソーシャルスキルの内容を、どの文化にも存在する文化共通の部分とある文化にしか存在しない文化特有の部分に分けることができるとしている。同じアジア文化圏にあり、儒教文化の影響で、中国と日本の文化は基礎的なソーシャルスキルについて共通しているところがあるが、特定の文化的要素を含んだ中国の文化、また日本の特有的な文化がある。例えば、杉村ら(2007)のソーシャルスキル尺度の「基本的マナー」には、『食事のときには「いただきます」と言っている』が落ちた理由として、中国の中学生の基本的マナーが欠如と言いにくく、中日文化の違いと思われる。中国では「いただきます」を言う習慣がない。杉浦らはそれを「基本的なマナー」として取り扱い、中国の中学生はそれをソーシャルスキルとして取り扱わないであろう。また、中国の大学生は個性を共有することで仲間として認められたいという欲求が強く、利益よりも自分のことをわかってほしく、自己表現力能力や自己主張的な傾向が日本人大学生より高いこと(顧, 2010)と思われる。意思表示は主張性の表現として、中

日の中学生には意思を表示する仕方が異なる可能性もあると推測される。

### 4. 中国の中学生が認知する親の養育態度と

#### ソーシャルスキルとの関連について

はじめに、男女とも「社交性」と両親の「情緒的暖かみ」との間に正の相関が見られた。つまり、「社交性」スキルと中学生が認知する親の養育態度との関連について考察する。「社交性」は、学校での集団生活をする時、対人関係がうまくいくようになるスキルである。前述べたように、中国人は集団での人脈を重視し、それは彼らが長期に送った家庭生活、特に親の受容的養育に関係があると見えよう。すなわち、親から愛されていると感じることは、家庭での様々な活動において、親が応援し、関心を持って見守ってくれるなど、自分のやりたいことができる環境の中で育っているため、物事をやり遂げる経験が豊富であるため、親からの情緒的暖かみは学校における集団生活での適応と関連があると考えられる。親からの情緒的暖かみを受けることは、受容された経験を基に何をすれば相手が喜ぶか、どうすれば相手のためになるかなど、他者の立場に立った考え方ができることにつながると姜ら(2006)が指摘している。したがって、親からの情緒的暖かみの経験により、人に迷惑をかけない、相手を傷つけないといった意味を含むルールへの適応に影響を与えると推察される。また、具体的なコミュニケーション技術の獲得には、日常生活上の会話の場面、つまり、子どもが話かけられ、話を聞いてもらうことができ、会話の場面を目にするといった環境が必要であると杉浦ら(2007)が指摘している。中学生にとって、学校場面を除き、より身近な会話の場面というのは母親と父親との会話の場面であると考えられる。

このように、情緒的に受容的な養育態度が高いということは、学校におけるソーシャルスキルを高め、逆に、拒否的な養育態度はソーシャルスキルを低めることが予想されるが、本研究では子どもが親からの情緒的暖かみとソーシャルスキルに関連があることが得点に反映されている。仮説②は部分的に支持された。

次に、「関係作り」スキルに対する養育態度との関連について考察する。「関係作り」スキルとは、他者に対する積極的なまたは効果的な言葉かけができるスキルである。つまり「関係作り」には、他者に対する信頼感と具体的なコミュニケーション技術が必要であると考えられる(賈, 2010)。他者に対する信頼感は、母親との間で築かれた基本的信頼感を基盤としている。牧田(1970)は、子どもの健全な発達の上で、親の愛情と受容と認容がほどよくある情緒的適温状態が大切と述べている。このことから、親の「情緒的暖かみ」という養育態度が、「関係作り」スキルには重要であることを示して

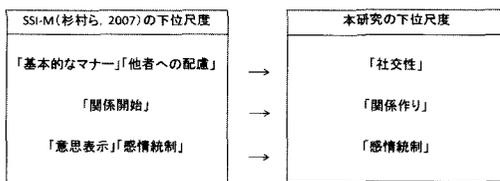


Fig.2 本研究と SSI-M (杉村ら, 2007) の因子分析の違い

いる。古川ら（2004）は、大学生における境界例心性と親の養育態度・家族の雰囲気との関連性について研究し、親が「やさしい」「支持的な」養育態度であると、子どもは親との基本的信頼感を得ることができると指摘している。親の「情緒的暖かみ」という養育態度によって、子どもは基本的信頼感を得ることができ、得られた基本的信頼感のもとに、「関係作り」スキルを獲得していくと考えられる。これは張ら（2011）の研究と一致している。しかし、青年期前期である中学生は親からの自立を考え（松平，2004）、特に第二反抗期のため、男子が母親との心的距離が遠くなり、母親の「情緒的暖かみ」の養育態度は認知されていないと推測される。

以上のことから、「関係作り」スキルは、対人関係の基礎となるスキルであり、両親とも「情緒的暖かみ」の養育態度が必要と考えられる。このことから仮説②が部分的に支持された。

さらに、「感情統制」に対する養育態度との関連について考察する。「感情統制」は、自分の感情や欲求を相手に伝えることができ、感情をコントロールできる、また他者の感情や欲求を受け取り、調整することができるスキルである。乳幼児期の子どもは、自分の気持ちを静めるなどの感情のコントロールを自ら行うことができないため、自分の感情を最も身近な存在で、主たる養育者である親にぶつけ、その感情を親に処理してもらうと杉浦ら（2007）が指摘している。このことで、子どもは、自分の代わりに行った親の感情処理のように自分の感情を処理することを学び、感情コントロールできるようになっていくとされている。つまり、親によって「感情統制」スキルの獲得は高められると考えられる。一人っ子の親の場合、子どものことは家族の中で何ごとにも優先され、身の回りのことはほとんど親が世話し、過保護・過干渉という養育態度になる。北京市の一人っ子の小学生の親に子どもを将来どのような人間に育てたいかについて尋ねたところ、学者、大学教授、海外留学生、芸術家と答えた親が90%以上を占めており、労働者と答えた親は皆無であったと繆（1997）が述べている。このように、中国の一人っ子の親は夢をすべて子どもにかけるため、「親の過剰な期待は私たちの能力を超えている」と訴える子どもたちが多くいる。こうした親の期待が過剰になればなるほど、子どもたちの適応や人格的発達に関しては軽視される傾向になる（侯，2002）と考えられる。親は子どもの出世だけをねらい、勉強面以外に拒絶する傾向があると思われる。同時に、吉田ら（1997）も日本の小中学生の一人っ子に対する研究で、非一人っ子との比較により、男子の一人っ子の親が子どもに拒絶的態度を向けていると指摘している。そうした環境の中では子どもは自己中心的となり、わがままで、自立が遅れ、ソーシャルスキルに負の影響を与えることが示唆された。

同様に、父親の「過干渉・拒否」を認知する女子は、親からの愛情を感じることができなくなると考えられる。このことから、父親の「過干渉・拒否」と「感情統制」スキルと負の相関があることが推測される。

拒否的な養育態度が高いということは、学校におけるソーシャルスキルを低めることが予想された。すなわち、本研究では親からの養育が子どものソーシャルスキルに弱い負の影響を与えることが予想された。従って、仮説②が部分的に支持された。

## V まとめと今後の課題

### 1. まとめ

本研究は、中国の中学生が認知する親の養育態度とソーシャルスキルとの関連を明らかにすることを目的として調査研究を行い、次のようなことが明らかになった。

(1) 中学生が認知する親の養育態度の違いについては、母親の「過干渉・拒否」と父親の「嫌悪」「過干渉・拒否」について、男子が女子より高く認知した。

(2) 中学生が認知する親の養育態度とソーシャルスキルとの関連については、次のとおりであった。①男女とも「社交性」は両親の「情緒的暖かみ」との正の相関が認められた。男子の「社交性」は父親の「過干渉・拒否」と弱い正の相関があることが明らかにされた。②男女とも「関係作り」は両親の「情緒的暖かみ」との弱い正の相関が明らかにされた。③男子の「感情統制」は母親の「嫌悪」「罰」と弱い負の相関が見られ、女子の「感情統制」は母親の「過保護」「過干渉・拒否」「罰」と弱い負の相関があることが明らかにされた。

(3) 以上の結果から、子どもに対して愛情をもって接し、子どもの気持ちを積極的に受容し、同時に子どもの行動を肯定し、子どもを認めるという親の養育態度が、ソーシャルスキルの獲得に大きな関連をもっていることが明らかになった。また、本研究の結果から、中国における中学生の親は「過干渉・拒否」になる傾向が高いことが明らかになった。学歴を重視し、受験競争と子どもへの過剰の期待と愛情という中国事情がその要因の一つだと思われる。また、一人っ子政策が実施されている中国では親が子どもを大事に育て、過剰の期待と愛情を注ぐことも理由の一つとして考えられる。中学生のソーシャルスキルを高めるには学校場面での働きだけではなく、家庭教育も重要になってくる。家庭場面には、中学生自身と親両方が重要である。親の溺愛、若しくは一方的な厳しい養育が中学生のソーシャルスキルの獲得を妨げていると考えられる。

### 2. 今後の課題

(1) 本研究では、杉村ら（2007）が作成した SSI-M

は中国の中学生への適用の結果は、日本人中学生への適用の結果と一致する部分があるが、日本人児童生徒用ソーシャルスキル尺度 SSI-M の特徴と比べて、不完全な部分もある(例えば、「基本的マナー」スキルと「意思表示」スキルが因子分析で落ちたなど)。中日両国のソーシャルスキルは文化的な差があるため、中国文化、中国人の価値観および行動様式などに基づいて、より幅広い中国の中学生のソーシャルスキルを網羅する中国版ソーシャルスキル尺度を開発することが必要であろうと考えられる。そして、家庭での養育態度のみならず、学校において教師が子どもに対する養育態度と仲間との付き合いが、ソーシャルスキルを高めていく上でどのような影響をもたらしているのかについても研究していく余地があると思われる。

(2) また、本研究は養育態度について、父母比較を中心に検討を行ったため、親の総合的な養育態度を見ることができなかった。これらの視点を考慮しながら、中国の中学生が認知する親の養育態度を総合的に検討していくことが今後の課題である。

(3) さらに、本研究は中国都市部にある1つの学校で質問紙調査を行ったため、学校差があることが問題として挙げられる。今後の研究では、調査協力者の質的な偏りを避ける必要があると考える。

## 引用文献

- 青木多寿子・谷口弘一・竹嶋飛鳥・戸田真弓 2008 両親の養育態度、生活体験が小学生の社会的スキル、生活充実感に及ぼす影響 広島大学大学院教育学研究科第一部(学習開発関連領域) 21-28
- 岳 冬梅 1993 父母教养方式: EMBU 的初步修订及其在神经症患者中的应用 中国心理卫生杂志 1993年 第7卷第3期 97-101
- 岳 冬梅 1999 父母养育方式量表(EMBU) 中国心理卫生杂志 1999年 161-167
- 古川奈美子・北山 修 2004 大学生における境界例心性と親の養育態度・家族の雰囲気との関係性について 九州大学心理学研究 5 207-218
- 堀毛一也 1994 社会的スキルを測る 人あたりの良さ尺度 菊池章夫・堀毛一也編 社会的スキルの心理学 川島書店 168-176
- 賈 蕊 2010 高中生父母养育方式与人际信任的相关研究 黑龙江教育学院学报 第29卷第6期 89-91
- 金井 剛 2009 思春期と家族 現代のエスプリ 509 53-62
- 顧 佩靈 2010 中国と日本の大学生の対人関係における自己開示の在り方に関する比較研究 九州大学心理学研究 第11巻 53-63
- 松原達哉・鄧 秀 1990 一人っ子の自主性と子どもから見た養育態度に関する研究—中国と日本との比較 筑波大学心理学研究 12 175-190
- 繆 曉春 1997 中国—まず、おとな 少子時代の子どもたち—望ましい家庭教育を探る プレーン 115-130
- 毛 新華・大坊郁夫 2005 中国の若者の社会的スキルに関する研究(1)—自由記述調査と予備的尺度構成の試み— 日本心理学会第69回大会発表論文集 162
- 毛 新華・大坊郁夫 2006 中国の若者の人づきあいスタイルについての研究—自由記述調査によるカテゴリカルな検討— 対人社会心理学研究 6, 81-88
- 牧田清志 1970 子どもの神経症 中外医学社
- 兰 金剛 2007 浅谈独生子女中学生的主要心理特征, 成因及教育策略 科教文汇 2007.1 47-48
- 李 英・赵 菊丛 2007 父母养育方式, 父母离异对高中生心理健康状况的影响 中国健康心理学杂志 2007年第10期
- 李 曉茹・下山晴彦 2008 中国人大学生における強迫傾向と親の養育態度 パーソナリティ研究 2008 第16巻 第3号 335-349
- 劉 囡 2005 中国における一人っ子のセルフモニタリング能力の発達と親の養育態度との関連に関する研究 Kyushu University NII-Electronic Service
- 查 彩慧・欧 婉杏・汪 玲华・杨 思达・李志斌・麦 坚凝 2011 学校恐怖症儿童的焦虑情绪与养育方式的关系 实用医学杂志 第27巻 第7期
- 杉浦浩子・杉浦文香・杉浦春雄 2007 親の養育態度が大学生のソーシャルスキルに及ぼす影響 健康レクリエーション研究論文集/実践報告書 Vol. 4, 15-27 (2007) 15
- 杉村仁和子 2006 児童生徒用ソーシャルスキル尺度の開発 2006年度研究活動報告書 東京大学大学院教育学研究科 教育研究創発機構 教育測定・カリキュラム開発(ベネッセコーポレーション)講座 VOL.6 224-233
- 杉村仁和子・石井秀宗・張 一平・渡部 洋 2007 児童生徒用ソーシャルスキル尺度(SSI-M)開発研究報告書 東京大学大学院教育学研究科 教育研究創発機構 教育測定・カリキュラム開発(ベネッセコーポレーション)講座 VOL.5
- 周 潔 2006 変わりつつある中国の家族関係 人民中国 2006年第2号
- 孫 瑞 2003 中国における「一人っ子」の特徴と教育課題 Ryukoku University NII-Electronic Service 258-265

- 戸ヶ崎泰子・坂野雄二 1997 母親の養育態度が小学生の社会的スキルと学校適応におよぼす影響 教育心理学研究 第45巻 第2号 23-32
- 张 蕾・吴 鑫德・黎 梅燕 2011 家庭教养方式与大学生社会技能的关系研究 社会心理学第26卷 总第123-124期 第5-6期 599-605
- 上原 徹・門脇真帆・坂戸 薫・C. Reist・S. W. Tang・高橋三郎・染矢俊幸 1999 日本語版 EMBU で評価された親の養育態度と子供の出生順位、性別との関連 日本社会精神医学会雑誌 第8巻1号 1999年7月 83

#### 謝辞

本論文は、平成22年度九州大学教育学部に提出した研究生論文のデータを再分析したものである。研究生論文作成にあたり、ご指導を頂きました九州大学大学院人間環境学府の教授 野島一彦先生に心から深謝致します。ならびに、投稿を快諾して下さいまして、お忙しい中丁寧にご指導を賜りました同教授 福留留美先生に厚く感謝を申し上げます。